

施策評価シート（評価対象年度：令和元年度）

1. 基本的事項

①施策名〔施策小〕	1 農業基盤の整備	②施策番号	3429
③まちづくりの方向〔政策(章)〕	3 産業の活力が増し、賑わいと交流が生まれるまち		
④基本施策〔施策大(節)〕	1 大地と海からの恵みとしておいしく安全な食料を供給し続けるとともに、魅力的な農業と漁業のあるまちをめざします		
⑤基本的方向〔施策中〕	1 農業の振興		
⑥担当部名	⑦担当課名		
市民生活環境部	産業観光課		

2. 施策の現状把握

〔1〕施策の対象・意図

①施策の対象(誰、何に対して施策を実施するのか)	農業関係者、水利関係者、地域住民、基幹農道整備・農道整備・農業用水路などの農業基盤
②意図(対象をどのような状態にしたいのか。何を狙っているのか)	農道整備、農業用水路の機能改善により、農業者の負担軽減、農業者の後継者対策、遊休農地の拡大抑制を図り、農業生産を向上させる。また、農業者・地域住民の利便性、地域間の交通利便性などの向上と地域での定住化促進を図る。
③環境(この施策を取り巻く状況はどのような状態なのか、また、国や府の動きはどのような状態で、今後どのように変化していくと考えられるか)	農業者などの後継者問題、遊休農地の増加問題も深刻化し、国や府においても農地を守るための様々な施策を実施している。今後、食料の安定供給を図るため、農道整備、水路整備などを進めることによる農業者の負担を軽減し、担い手不足の解消や省力化農業を進める施策が必要となると考えられる。

〔2〕施策指標及び推移

施策指標(成果指標)		単位	指標とした理由・考え方
①	堀河ダム取水施設等改修事業 進捗率 計算式 負担済額/全負担予定額	%	この堀河ダム取水を整備することは、農業基盤の整備につながるため。
②	農道水路改修工事 改修延長 計算式	m	
③	池数 計算式	池数	

	指標名	単位		H29実績	H30実績	R元実績	R2見込	R3目標	備考
①	堀河ダム取水施設等改修事業 進捗率	%	目標値				100	—	
			実績値	7	31	67	—	—	
			達成率						
②	農道水路改修工事 改修延長	m	目標値				440	400	
			実績値	405	380	540	—	—	
			達成率						
③			目標値						
			実績値						
			達成率						

〔3〕施策を構成する事務事業

	事務事業名	成果指標					総事業費(千円)			事務事業評価結果		重点化
		指標名	単位	H30実績	R元実績	R2見込	H30実績	R元実績	R2見込	総合評価	今後の方針	
1	堀河ダム維持管理事業	平均貯水量	m ³	1,858,276	2,051,340	2,051,340	6,389	7,983	3,965	A	ア	◎
2	農道水路改修事業	水路改修延長	m	330	470	400	19,219	19,388	21,027	A	イ a	○
3	農業振興事業	基盤整備済面積	ha	18.6	18.6	18.6	14,137	14,029	17,723	A	ア	
4												
5												
6												
7												
8												
計	3						39,745	41,400	42,715			

3. 施策の評価

評価の視点	説明・コメント等
①本施策の意図すること(目的)は、上位施策(施策中)の達成にどのように貢献しますか。 (施策所管課等としての考えをお示ください。)	農業基盤の整備(農道や水路などの整備)は農業生産の向上、省力化農業の促進、また地域での定住化が促進されることが目的であり、これらの目的が農業者の後継者問題解消、優良農地の保全及び遊休農地の拡大抑制へ結びつき、上位施策である農業の振興に貢献する。
②本施策で設定した指標から何が読み取れますか。 (2[2]の表の数値の推移から分析できることをお示ください。)	本市の農業用水の最大の貯水施設である堀河ダムの取水施設等の改修を順次行っている、また農道水路は順次老朽化していくが順次改修を行っている状況であり、農業基盤整備の進捗状況が一定進んでいることが読み取れる。
③本施策において市民、団体等との役割分担や市の関与は適切ですか。 (施策所管課等としての考え(理想と現実)をお示ください。)	農業基盤の整備内容により、農業者、地域関係者、水利団体、区、関係団体などと連携を図りながら、役割分担を行い、迅速に機能回復、改善改修を行っており適切である。
④施策を構成する事務事業は適正ですか。 (2[3]を踏まえ、施策目標に対し事務事業にずれはないか、数は適正かについて考えをお示ください。)	施策の内容に応じて、適正に構成されている。
⑤施策を構成する事務事業の中で重点化及び縮小化についてどのように考えますか。 (2[3]において、◎、○、▲とした理由をお示ください。)	老朽化してきている堀河ダムの取水施設等の改修を行うこと、また、その他の農道、水路も順次老朽化が進むため順次改修整備を行うことは、農業生産性、農業者の負担軽減、農村地域の利便性、地域間の交通利便性の向上に直結するため、これらの事務事業は重点化するべきと考える。

4. 一次評価(所管課評価)

一次評価	評価(A～D)	課題等	A: 施策達成に向けた取組や展開などが大変評価できる
	C	農道などの農業施設は今後年々老朽化の傾向にあり、計画性を持ちながら改修を行う必要がある。	B: 施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われている C: 施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われているものの、改善の余地がある D: 施策達成に向けた取組や展開などが不十分であり、改善の余地が大いにある

5. 改革、改善案

即時的対応 (すぐに取り組む改善案)	農業者・地域住民の良好な環境・生活空間を保つため、突発的な災害整備や緊急性を要する修繕などは即時対応改善していく。
短期的対応 (1、2年のうちに取り組む改善案)	農業基盤を整備することは農業生産性の向上につながるため、今後の必要性に応じ府営事業、府単独補助事業を活用しながら整備に取り組む。
中長期的対応 (3～5年をめぐりに取り組む改善案)	—

6. 二次評価(行革・財産活活用室評価)

二次評価	評価(A～D)	課題等	A: 施策達成に向けた取組や展開などが大変評価できる
	C	指標とする農道水路改修や堀後ダム回収は継続実施され、基盤整備への取組が適切に実施されている。 老朽化対策にあたっては、農業基盤の維持と安全性確保のため優先順位を定め、計画的かつ適切に取組を進められたい。	B: 施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われている C: 施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われているものの、改善の余地がある D: 施策達成に向けた取組や展開などが不十分であり、改善の余地が大いにある